

○蛋白の検査

分類	蛋白
項目名	T P
日本語名	血清総蛋白濃度
英名	Protein, Total
分析装置	LABOSPECT008
測定方法	ビウレット法
生物学的基準範囲	6.6-8.2
臨床的意義	<p>血漿蛋白は血漿中の約8%を占め、多種類の蛋白成分から成り立っており、その総和を総蛋白(TP)といいます。総蛋白は60%のアルブミンと20%のγグロブリンが大部分を占め、γグロブリンは、TPの増減を反映しています。残りの20%にも多くの蛋白が含まれているが、これらの微量蛋白が総蛋白濃度に影響を与える事は少なくありません。総蛋白の増加は、ほとんどが多クローン性および単クローン性のγ-グロブリンの増加を反映しています。一方、総蛋白の減少は、アルブミンの低下によるものが多く、アルブミンはそのほとんどが肝細胞で合成されることから、栄養不良や肝障害による合成の低下、腎疾患・胃腸疾患・滲出性疾患・体腔液の排除などによる体外への喪失などを反映しています。意義としては、慢性消耗性疾患、甲状腺機能亢進症などの蛋白異化亢進が原因の場合、蛋白合成低下、漏出あるいは血液濃縮などの際に起こる多くの病態の把握に用いられ、スクリーニング検査および診断の補助に有用です。</p>

分類	蛋白
項目名	A L B
日本語名	アルブミン
英名	Albumin
分析装置	LABOSPECT008
測定方法	BCP改良法
生物学的基準範囲	3.9-4.9
臨床的意義	<p>アルブミンは肝で合成され血清総蛋白の約60%を占める成分です。膠質浸透圧の維持に関係し、ビリルビン、尿酸、遊離脂肪酸、サイロキシン、Ca、Cu、Zn、そのほか各種薬剤や色素などの物質との結合輸送に重要な役割をもちます。臨床的には全身栄養状態や腔内・体外への喪失の把握、肝機能障害の検査として利用されています。基本的に、T Pとほぼ同様な病態で変動します。肝臓での産生量、生体内分布、異化、排泄能のバランスにより濃度は大きく左右します。</p>